

平成26年度 第3回花見川区地域福祉計画推進協議会議事要旨

日 時 平成26年12月10日(水) 午後2時～午後3時55分
場 所 花見川保健福祉センター3階大会議室

出席委員数 19名

欠席委員数 7名

オブザーバー 1名

事務局 11名

【1】次第

- 1 開会
- 2 議題 (1) 第2期花見川区地域福祉計画の推進状況について
(2) 第3期千葉市地域福祉計画(案)市民説明会の結果について
(3) 第3期千葉市地域福祉計画(案)の概要について
(4) 第3期花見川区地域福祉計画の今後の進め方について
(5) その他
- 3 閉会

【2】議事要旨

議題(1) 第2期花見川区地域福祉計画の推進状況について

事務局より、資料1「取り組み項目地区別一覧表(平成26年12月10日現在)」をもとに、新たに追加された部分について報告(①-2花見川区地区部会エリア・ふれあい子育てサロン「たかびよ広場」他2事業を追加。)

また、資料2「地域福祉の活動内容に関する情報提供用紙」により、引き続き情報提供を求めた。

<質疑応答>

委 員：鷹の台自治会「たかびよ広場」について詳しく教えてもらいたい。

委 員 長：隣の千代の台自治会で子育てサロンを開催していたのが廃止となったため、鷹の台自治会が引き継ぐような形で始めた。当初、自治会館1階の使用を希望されていたが、人の出入りが激しいため2階で開催している。2階は、周囲がガラス戸なので、自治会費で屏風型のカバーを取り付けるなどして安全対策を施している。現在は、5組から10組程度が参加しており、特にテーマを決めず自由に過ごしてもらい、保護者同伴で「子供の遊び場」の提供と考えている。今後は、子育ての専門家から話を聞く機会を設けるなどの活動をしたいと考えている。

議題(2) 第3期千葉市地域福祉計画(案)市民説明会の結果について

高齢障害支援課・内山所長及び片桐係長より、資料3「第3期千葉市地域福祉計画(案)市民説明会の結果について」をもとに、市民説明会の参加状況や意見等を報告。

<質疑応答>

委 員：肝心の担い手となる世代が説明会に出席しておらず、担い手世代の関心が無いことを痛感した。担い手がいて、初めて議論できることなので、どうにかしなければならぬ。

事 務 局：担い手不足の問題については、時間があれば、本日の後半で議論したいと考えている。

委 員 長：今回の説明会は、先ほど所長から説明があったように、声掛け、動員は行っていない。その結果だと思うが、今後は、担い手に来てもらって説明するという

のも一つの手かと思う。これからは何をやるにしても、声掛けが必要なかもしれない。

委員：「町内自治会の加入率低下の原因は何か」との意見について、何と回答したのか。また、説明会終了後に寄せられた意見についてはどうか。

事務局：町内自治会の加入率低下に関する意見に対しては、その原因の一つとして、自治会の会費や役員の負担に対して加入のメリットが少ないと感じる人が多いのではないかと推測される旨、回答した。自治会は、地域コミュニティ、郷土の担い手として重要と認識しており、今後も自治会の役割や意義などを啓発していきたい。今回、市民説明会の参加者が少なかったことについては、周知した結果であり残念であるが、これが市民の関心の現実であり、「福祉は行政が担うもの」との市民意識の表れかと思われる。今後も、地域福祉への住民参加の意義や重要性を周知、啓発していきたい。また、説明会后にファクスで寄せられた意見については回答していない。

委員長：自治会が弱体化し、加入のメリットが乏しい団体が増えているのだと思う。結局は、役員の高齢化や会長が頻繁に変わることが原因で会の活動が乏しくなり、自治会に魅力が無くなるという悪循環に陥っている。自治会をどう再建するのか、解決しなくてはならない。市民説明会の参加人数については、推進協委員など内容を理解しているから参加はしない、という人もいると思われるので、それほど悲観しなくてもいいのではないか。

委員：現状で担い手が減っている。これは今まで通りの対応では改善できないのではないか。どうしたらいいのかを掘り下げていくべきだと思う。

委員長：担い手の問題については、時間があれば後で議論したい。

議題（３）第３期千葉市地域福祉計画（案）の概要について

地域福祉課・西村係長より、資料４「（案）支え合いのまち千葉推進計画」をもとに、第３期千葉市地域福祉計画（案）の概要を説明。

<質疑応答>

委員：一般市民への周知はどのように行う予定なのか。

事務局：平成２７年４月から５月頃に計画書本編の製本を予定しており、地区部会や自治会には本編を配付したいと考えている。区計画については、リーフレットを多数用意し、自治会の組単位まで配付したい。

委員：第２期計画と第３期計画の基本的な違いを知りたい。私の認識では、活動の中心は地区部会、内容は共助が中心、市と社協がフォローする、と理解しているがよろしいか。

事務局：計画書の３９ページに計画全体のポイントを、６２ページに区計画のポイントを整理している。第２期と第３期の主な違いとしては、まず、社協、市、区の３者が連携協働して地域の取組みを進めることを明確に記載したこと。共助について３者がフォローするという考え自体は変わっていないが、明記したことが大きい。また、第２期では市計画１冊に加え各区１冊ずつの合計７冊作成していた冊子を、第３期では１冊にまとめたこと。第２期では各区単位で設定していた重点取組項目を、第３期では地区部会エリア毎に設定してもらったこと。第３期区計画については、区単体の計画は４ページ程度とシンプルなものにまとめ、リーフレットとして市民に広く配布して周知を図れるようにしたこと。大きな違いとしては以上である。

委員：「花見川区支え合いのまち推進計画」とあるが、「地域福祉計画」の名称は削除されるのか。

事務局：７２ページにあるとおり、サブタイトルとして「第３期花見川区地域福祉計画」

として残る形になる。

- 委員：通称名として「花見川区支え合いのまち推進計画」を使うということか。
- 事務局：この通称名で周知を図っていきたい。これまで「花見川区〇〇プラン（案）」として説明してきたが、市で協議した結果、この通称名に決定した。「福祉」というと、行政からの給付サービスと捉えられる傾向があるため、そのイメージを払拭したい。
- 委員：134ページでは、本会議「花見川区地域福祉計画推進協議会」の名称変更について触れているが。
- 事務局：まだ正式にアナウンスしていないが、第3期計画の名称変更に伴い、本会議の名称を「花見川区支え合いのまち推進協議会」に変更予定である。
- 委員：市民説明会で「税金の無駄ではないか」との意見があったが、地域福祉計画策定のための予算はどの程度か。また、国から地方交付税などでの予算措置はあるのか。
- 事務局：地域福祉計画の策定にあたっては、基本的には、推進協議会開催に関する経費と、計画等の印刷製本の経費のみで、その他は担当職員の人件費となる。国からの予算措置については、正確には把握していないが、地方交付税には該当せず、市の一般財源であると思う。
- 委員：市民へのPR関連の予算は入っていないのか。
- 事務局：冊子版を広く配布することは難しいため、区計画についてはリーフレットを作成し配付したい。
- 委員：予算措置に関して、新たに計画を策定する以上、公助でも予算を伴う項目があると思われる。新規事業が少ないようだがどうか。公助の部分でもこれだけ動いている、という事が重要なのではないか。
- 事務局：新規との記載がないので分かりづらいが、例えば、高齢者保健福祉推進計画と関連して、新規事業として「No. 22 在宅医療と介護の連携」「No. 24 生活支援・介護予防サービスの基盤整備の推進」「No. 30 認知症施策の推進」を掲載している。
- 委員：花見川区には、地区部会の無い地域があるが、他区にも同様の地域はあるのか。地区部会は今後の福祉の中心となるものだと考えるが、未設立地域はどうなるのか。周辺の地区部会に合流させるなどの対応は考えていないのか。
- 事務局：若葉区にも未設立の地域があったと思うが、確認を取った上で次回の会議で報告する。未設立のエリアが広範に渡っているため、近隣の地区部会との合流よりも、その地域での立ち上げを目指している。
- 委員：計画を進めるにあたり、空白地域が生じないようにしてもらいたい。
- 委員長：現実的には、合流する側、される側双方に反対意見が出るなど困難が予想される。地区部会立ち上げの支援をしているという事で良いか。
- 事務局：地域の実情の把握など、立ち上げに向けた支援を続けている。
- 副委員長：今回、社協とのつながりを強調しているが、具体的に活動するには自治会の協力が無いと難しい。自治会について、位置づけを含め、どのように考えているのか。
- 委員長：現場で実際に動くのは自治会であって、自治会にやって欲しいとお願いするのが社協になるのではないか。
- 事務局：地域の担い手としては、自治会以外に民生委員や老人クラブ、ボランティア組織、赤十字奉仕団など様々ある中で、どこか特定の団体だけで活動を進めることは難しい。地域福祉の活動の中心は自治会だと考えているが、地域福祉のリーダーとしては地区部会、現実的な活動の中心は自治会になるものと理解している。

- 委員：自治会の重要性について同感である。民生委員の活動や、老人クラブなど様々な団体活動の中心は自治会である。我々の地区部会では、予算の一部を自治会費から入れてもらっている。今回の計画の策定にあたっては、自治会をベースにすると膨大な数になってしまうので地区部会単位にしたのだろうが、福祉の中心は自治会である。
- 委員：私は、社協の地区部会長と自治会の地区会長を兼任しており、日頃、社協の立場から各自治会に色々とお願いをしている。現在、自治会の活動内容を把握するために、地区部会長として各自治会にアンケートを依頼しているが、一口に自治会と言っても、構成戸数が1,000を超える所から20程度の所まで大小様々である。大きな所はともかく、小さい所は活動が回らない。合併して規模を大きくすれば人材も出てきて活動もスムーズになるのと思うが、強制はできない。焦っても仕方ないので、一步一步進んでいくしかないと考えている。
- 委員：地域福祉の原点は「向こう三軒両隣」の精神だと思っている。昔から続いている地域は、火事の後始末や葬儀など互いに助け合う習慣が残っており、むしろ小さい自治会の方がそういった傾向が強いと思う。一方、新しく開発された地域では自治会への加入率が低いのだと思う。自治会活動は、いざという時に動けるかどうか重要だと思っている。
- 委員長：昔からの地域については、今のところは出来ているが、新たな問題を取り入れて行けるかどうか重要だと思う。地域福祉計画については、地区部会をエリアでとらえて、実際の活動は、その中の自治会が頑張らないとどうしようもない。地区部会は自治会との連携を密にして、一方の自治会も民生委員や老人クラブなどの関係団体と上手く連携できるように、いざという時は助け合っていけるようにすることが重要だと思う。

議題（４）第３期花見川区地域福祉計画の今後の進め方について

花見川区社会福祉協議会・石本所長より、資料５「第３期花見川区地域福祉計画進行管理表」をもとに、今後の進め方を説明。

<質疑応答>

- 副委員長：なぜ進行管理、報告が必要になるのか。
- 事務局：重点取組項目を地区部会エリア毎に決めてもらったが、それがどのような形で進んでいるのかを教えてください。
- 副委員長：ボランティアとしてやっているのに、なぜ報告が必要なのか。報告することで新たな助成があるわけでもない。報告作業が現場にとっては負担になる。
- 委員長：負担になることは間違いないが、意図としては、重点取組項目の進捗状況をはっきりさせたいという事だろう。報告は年１回でよいか。
- 事務局：意図、報告回数ともにそのとおりである。
- 委員：計画を策定する以上、進行管理は当然のことだと思う。ただし、まずは公助の部分が重要ではないか。公助で何をするのか、新規事業の内容も固めてきちんと示すべきである。
- 副委員長：ボランティアなのだから、報告どうこうでなく、自由にのびのびと活動できるようにしてもらいたい。
- 委員：あまり難しく考えることはないのでは。地区部会の総会でも説明が必要なのだから、結局、同様の作業が必要になってくる。これは、いつまでに作成するのか。計画開始に合わせて来年４月までに作成するのか。
- 事務局：時期に縛りは設けない。年明けに各地区を回らせてもらい、地域の実情を踏まえた上で相談したいと考えている。

議題（５）その他

委員長：市には、少子・超高齢化の問題をどうにかして欲しい。その対策が市・区の最重要課題だと考える。若い人が増えないと全ての問題が悪化するが、一方、若い人が増えれば、何でもどうにかなるのではないか。

委員：市の問題というよりは、国家レベルの問題だと思う。

委員：担い手となる若い世代に、どのような形で話を持っていくのか。もう少し具体的に話し合っていく必要がある。自治会の内部に担い手がいないのならば、いる所でアピールしていくべきだ。

事務局：本日は、ここまで活発な議論をいただき、意見交換に十分な時間が割けない状況である。担い手不足や人材育成の問題については、次回以降、改めて時間を設け、議論いただきたいと考えている。

(議事終了)

事務局より、次回は２月又は３月の開催であることが伝えられ、原田委員長が閉会挨拶し、午後３時５５分、花見川区地域福祉計画推進協議会は閉会した。